

2023年12月期 第2四半期 決算説明会

2023年8月9日
THK株式会社
代表取締役社長
寺町 彰博

本資料に含まれている事業計画、業績予想、経営戦略など将来の見通しに関する事項は、本資料制作時点において入手可能な情報に基づき、THK株式会社の経営者が判断したものです。したがって、環境の変化により、業績や戦略の進捗状況が異なることがあり得ることをご承知ください。また、当資料には決算開示事項以外の参考情報が含まれますこともご承知ください。

目次

**I. 2023年12月期 第2四半期
決算概要**

II. 主な取り組み

III. 2023年12月期 業績予想

I . 2023年12月期 第2四半期 決算概要

連結売上収益は前年同期比0.6%減少の1,855億円となった

- 各地域においてコロナ禍からの経済活動の正常化への流れが継続する一方、ウクライナ情勢などの地政学的リスクの高まり、インフレの進行、そして一部金融機関の破綻に端を発した金融不安など世界経済は先行き不透明な状況が続いた。
- そのような中、産業機器事業は、エレクトロニクス関連をはじめ全般的に需要が減速する中、高水準で推移していた受注残を売上収益へと繋げたが減収となった。一方、輸送機器事業は、部品供給不足などによる自動車の減産の影響が残る中でも、売上収益は前年同期に比べて回復の方向へと向かった。

連結営業利益は前年同期比21.2%減少の164億円となった

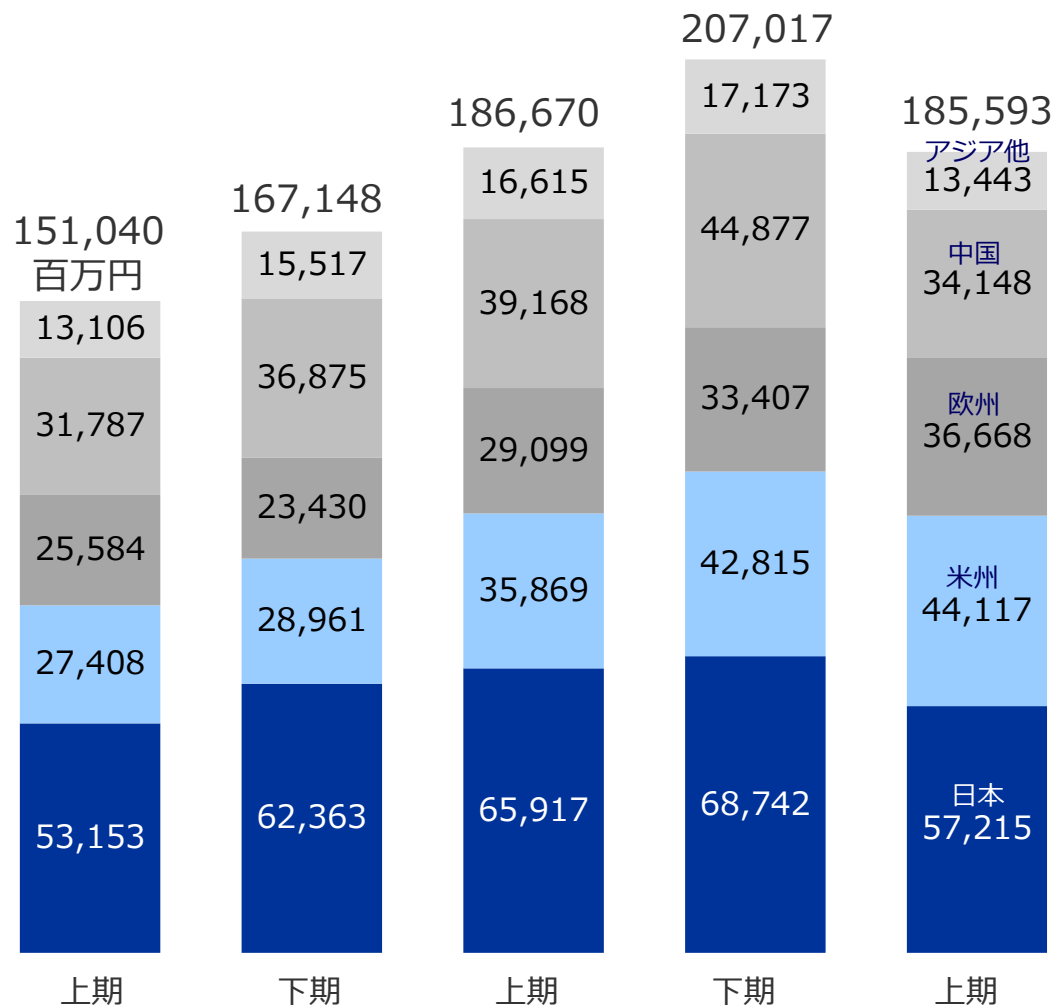
- 産業機器事業は、売上収益の減少に伴う数量効果のマイナス影響に加え、コロナ禍が明けて将来の成長に向けた様々な活動を本格化したことや人的投資の増加などにより、減益となった。
- 輸送機器事業は、売上収益の増加に伴う数量効果のプラス影響に加え、収益性改善に向けた各種取り組みなどにより、前年同期比で増益となるとともに黒字転換した。

売上収益、営業利益ともに期初計画を上回った。

- 産業機器事業において需要が減少する中でも、受注残を着実に売上収益へと繋げた結果、期初計画に対して売上収益は108億円、営業利益は39億円、それぞれ上回った。

売上収益の推移

※伸び率は参考値



アジア他	
●台湾	△48.8 %
●シンガポール	△21.0 %
●インド	△21.3 %
中国	
●工作機械	△28.8 %
●一般機械	△6.0 %
●エレクトロニクス	△29.8 %
●輸送用機器	△26.3 %
欧州	
●工作機械	+12.3%
●一般機械	△8.8%
●エレクトロニクス	△8.1%
●輸送用機器	+21.9%
米州	
●工作機械	△19.6%
●一般機械	+16.7%
●エレクトロニクス	△51.9%
●輸送用機器	+26.7%
日本	
●工作機械	△13.4%
●一般機械	△33.5%
●エレクトロニクス	△23.7%
●輸送用機器	+38.5%

※地域別売上収益は
所在地セグメントではなく海外売上高ベース
※業種別伸び率は1-6月累計の現地通貨ベース
※輸送用伸び率はTHKリズムとTRAの合計値比較

邦貨換算レート

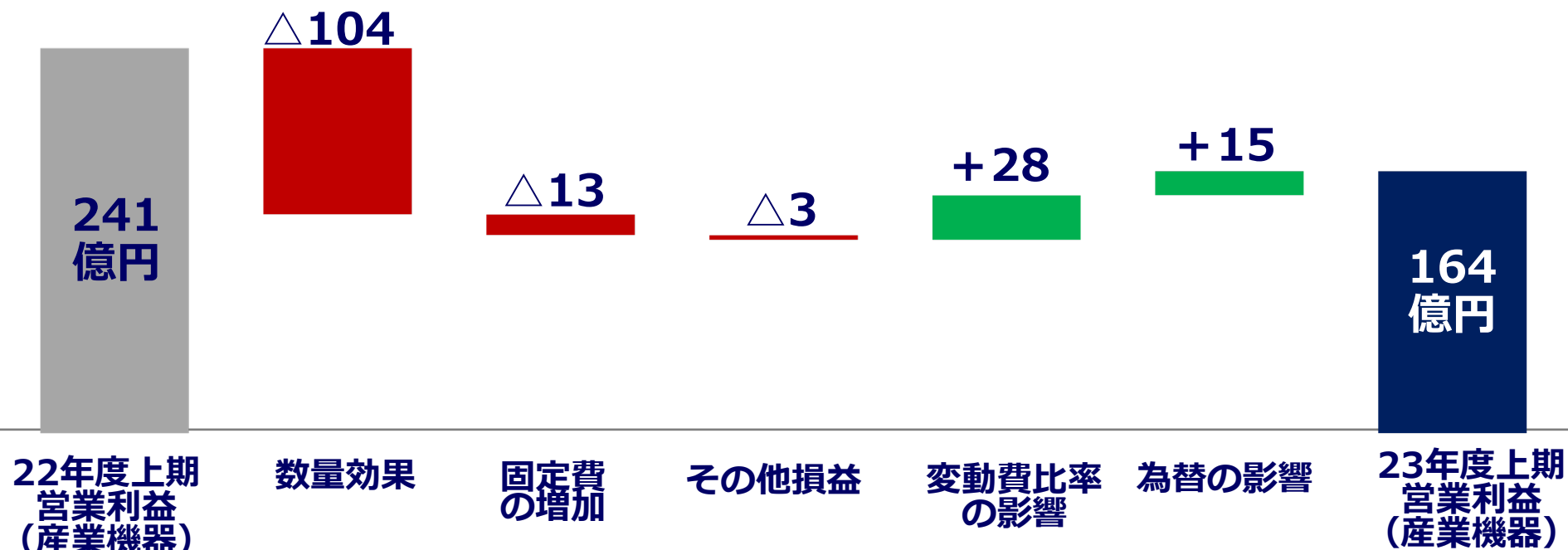
2021/12

2022/12

2023/12

1US\$	107.68	111.90	122.98	139.88	134.87
1EUR	129.80	129.90	134.30	141.75	145.79
1CNY	16.65	17.40	18.97	20.03	19.47

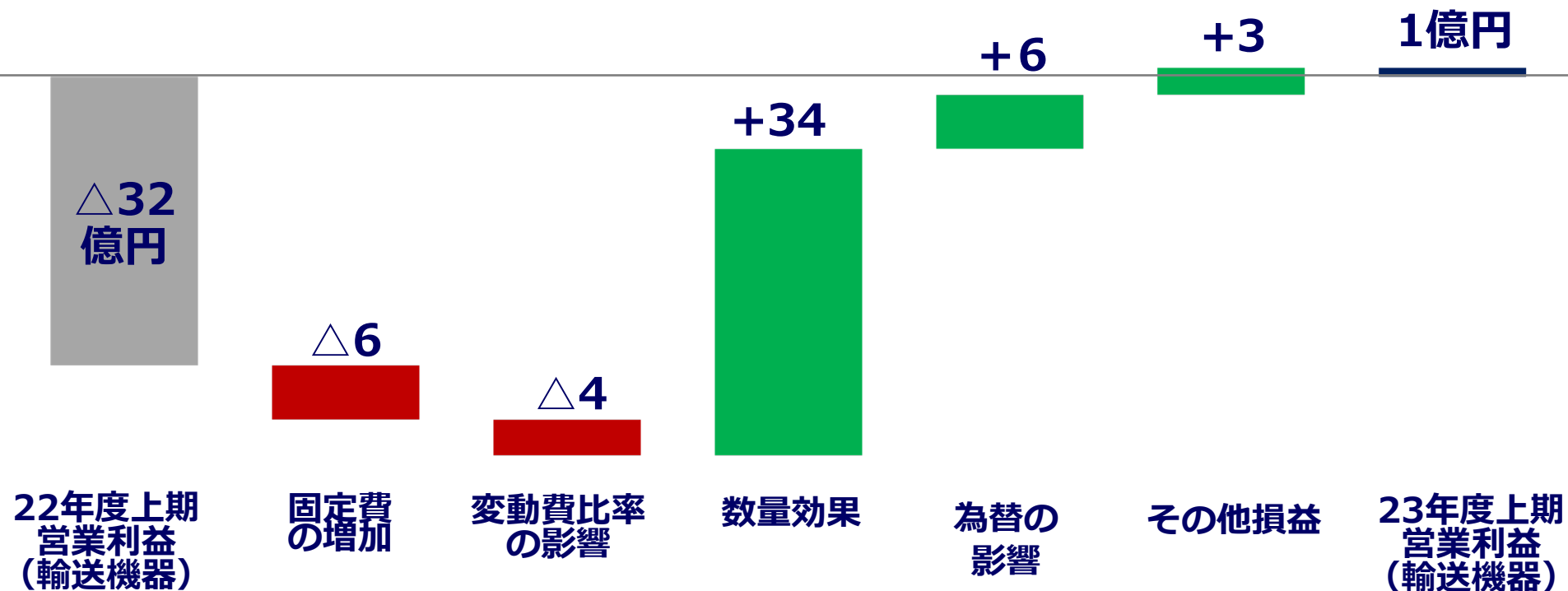
(参考) 営業利益 増減要因 (産業機器事業)



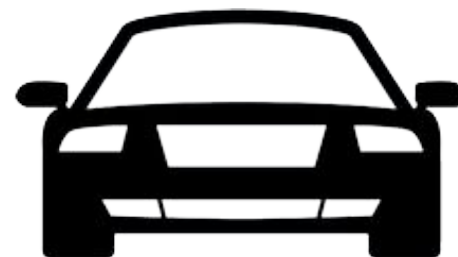
事業別実績 単位：億円		FY22		FY23
		1H	2H	1H
産業機器	売上収益	1,366	1,455	1,191
	営業利益	241	270	164



(参考) 営業利益 増減要因 (輸送機器事業)



事業別実績 単位：億円		FY22		FY23
		1H	2H	1H
輸送機器	売上収益	501	615	665
	営業利益	△32	△135	1



※輸送機器事業はTHKリズムとTRAの合計値

資産・負債/資本の状況

総資産 569,464 百万円
前期比 +9,159 百万円

現金及び預金 | 前期比 △4,193百万円

営業C F	21,132百万円
投資C F	△11,793百万円
財務C F	△19,598百万円
換算差額	6,066百万円

営業債権及びその他の債権 | 前期比

△5,158百万円

売上債権回転月数	前期 3.0ヵ月 当期 3.0ヵ月
----------	----------------------

棚卸資産 | 前期比 +8,236百万円

棚卸資産回転月数	前期 2.4ヵ月 当期 2.8ヵ月
----------	----------------------

有形固定資産 | 前期比 +10,562百万円

設備投資	12,737百万円
減価償却費	9,101百万円

**のれん及び無形資産 | 前期比
+695百万円**

流動資産

349,702

前期比 △3,239

負債

202,906

前期比 △20,117

資本

366,557

前期比 +29,276

非流動資産

219,761

前期比 +12,399

流動負債 | 前期比 △8,049百万円

- 営業債務及びその他の債務 | 前期比 △5,307百万円
 - 仕入債務回転月数 前期 1.3ヵ月
当期 1.3ヵ月
- 社債及び借入金 | 前期比 +162百万円
- 未払法人所得税 | 前期比 △3,947百万円

非流動負債 | 前期比 △12,067百万円

- 社債及び借入金 | 前期比 △12,135百万円

**親会社の所有者に帰属する当期利益
12,042百万円**

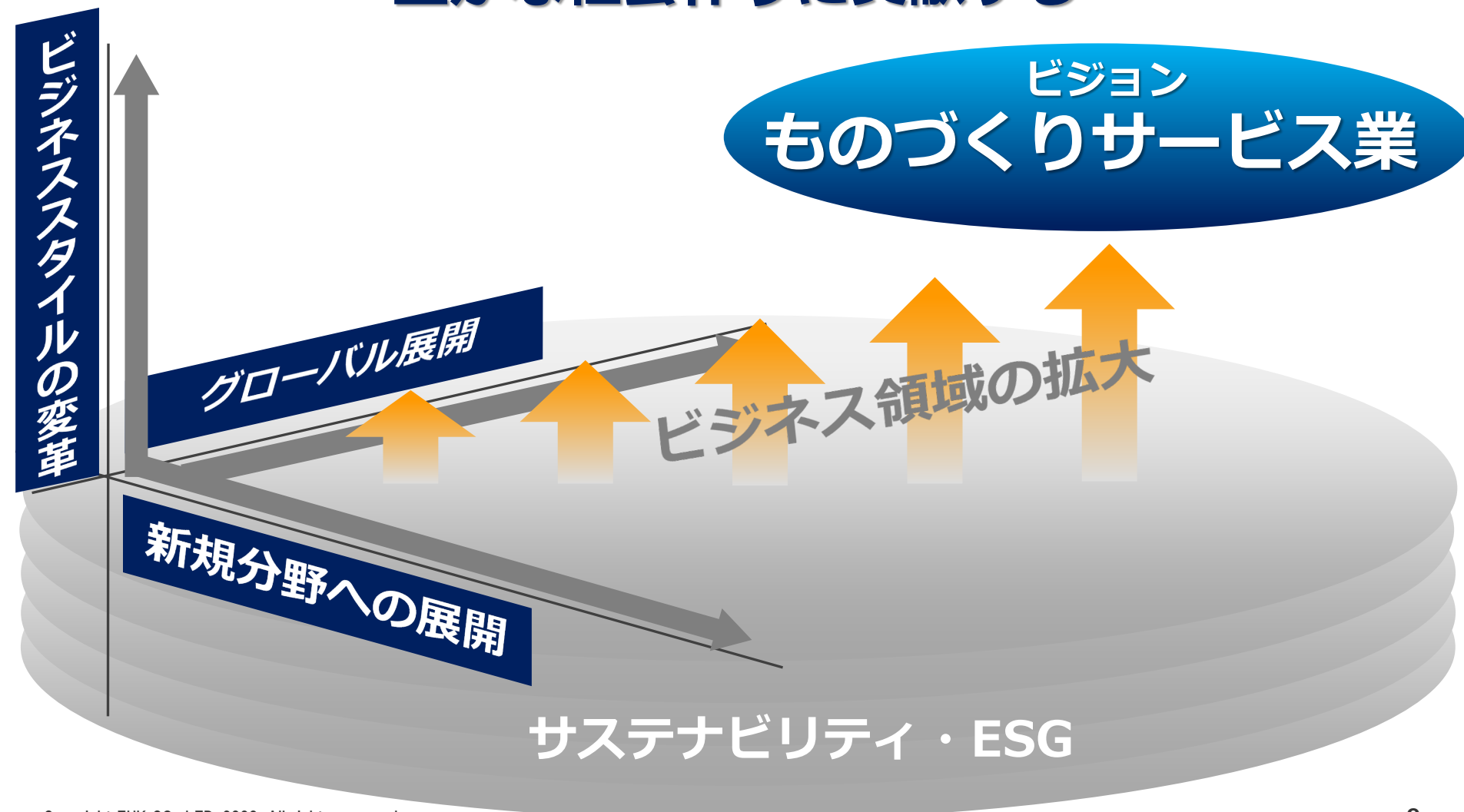
配当金の支払い 6,119百万円

**為替換算調整勘定 | 前期比
+22,156百万円**

Ⅱ. 主な取り組み

経営理念

世にない新しいものを提案し世に新しい風を吹き込み
豊かな社会作りに貢献する



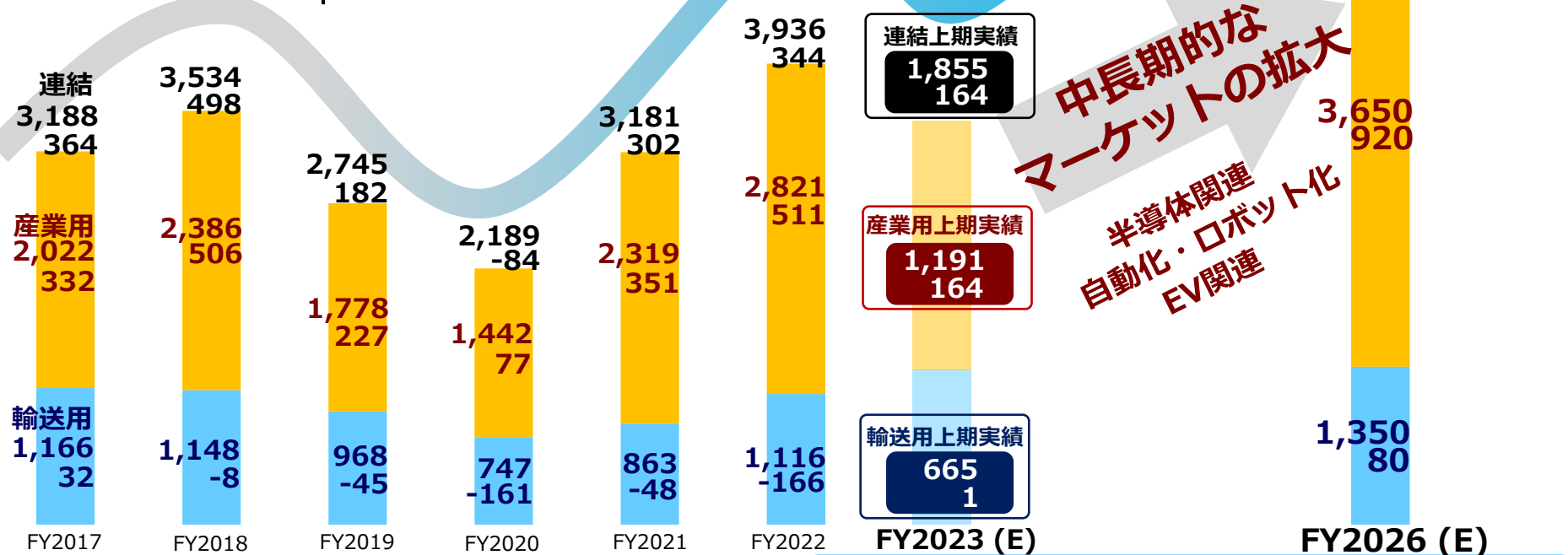
各事業における主な取り組み

23年度は調整も24年度以降には、かつてない需要の山を想定

売上収益（上段：億円）
営業利益（下段：億円）

※輸送機器事業はTHKリズムとTRAの合計値

IFRS



経営目標	
売上収益	5,000億円
営業利益	1,000億円
EPS	590円
ROE	17%

中長期的な
マーケットの拡大

半導体関連
自動化・ロボット化
EV関連

産業機器事業＋その他



シェア拡大・グローバル供給能力増強
DXの推進(Omni THK、OMNIedge)
新製品の開発・加速

輸送機器事業



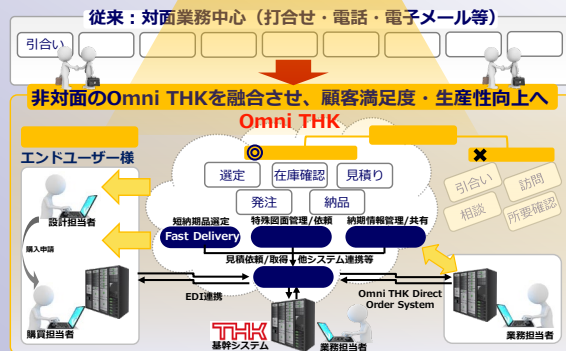
次世代自動車向け製品拡大
アルミ製品強化
収益性改善

一人当たり売上・生産性（＝収益性）向上

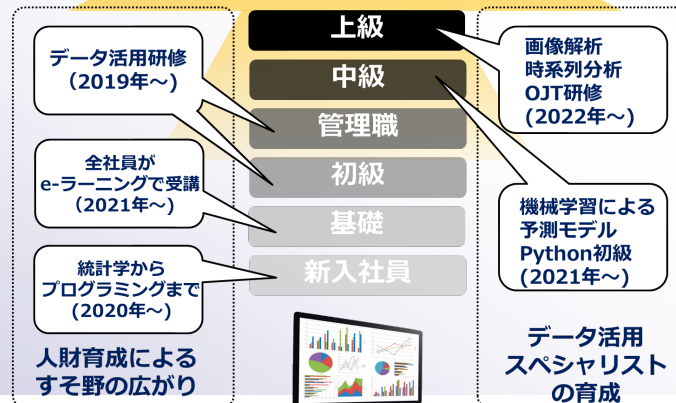
収益最大化



Omni THKの推進



デジタル人材の育成



各種ICTツールの導入 仕組みの構築

BIツール
CRM RPA/OCR
AI、IoT データウェアハウス
マーケティングオートメーション
etc.

OMNIedgeによる設備総合効率(OEE)の最大化

設備総合効率（OEE）の最大化に向け
各種ロス削減につながる新たなソリューションを開発・投入

設備の効率化 (各種ロス削減)

故障ロス ●
段取り/調整ロス
刃具交換ロス ●
立ち上がりロス
チョコ停/空転ロス
速度低下ロス
不良/手直しロス ●
シャットダウンロス

OMNIedgeの展開

部品予兆検知ソリューション
(直動部品 / 回転部品)



工具監視AIソリューション



AI 診断サービス「ADV」

部品予兆検知AI(直動部品)

設備によって取付姿勢や
動作パターンが千差万別

管理しきれない

直動部品の保全活動といえば・・・



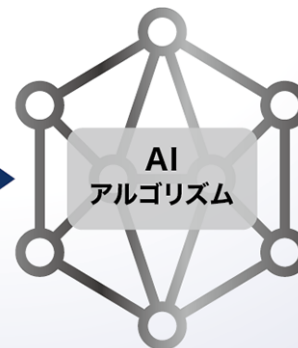
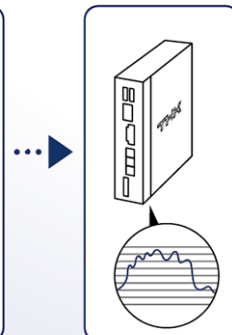
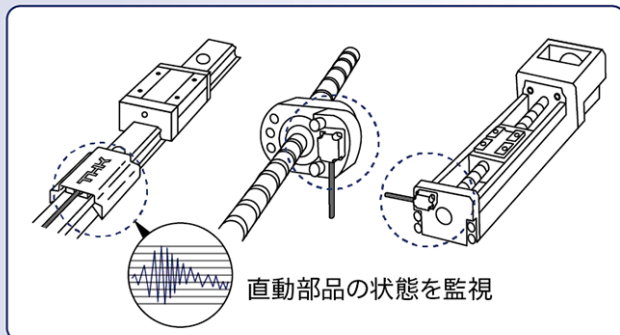
メンテナンス時の判断 ▶ 属人化

管理対象の設備や機器が膨大
多すぎて手に負えない

予兆検知を導入しても・・・「設備ごとに状態と条件が異なり、閾値の設定が難しい」

OMNIedge なら「ADV」がお悩みを解決

AIアルゴリズムが異常度(破損・潤滑状態)のスコアを算出



閾値の設定が不要

&



変化/異常を自動でお知らせ

&



直動部品を熟知した
データサイエンティストが
データを分析・見守りレポート

THK
The Mark of Linear Motion

幅広い業種のお客様への導入が着実に進行中



※導入企業様の一部のみ紹介
※順不同・敬称略

新規分野の開拓

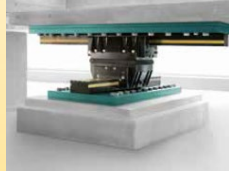
新規分野

人手不足・人件費高騰、及びIoTの進展を背景に拡大する
サービス産業の省力化をお手伝い

レストラン



免震・制震 Home Automation



工作機械



鉄道車両・航空機



産業用ロボット



物流



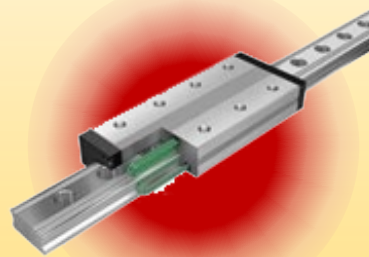
再生可能エネルギー



ショップ

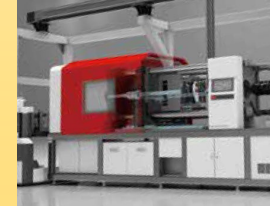


医療機器

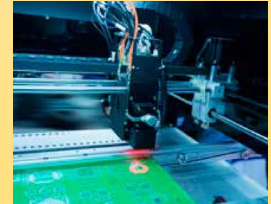


直動コア技術

一般機械



半導体製造装置



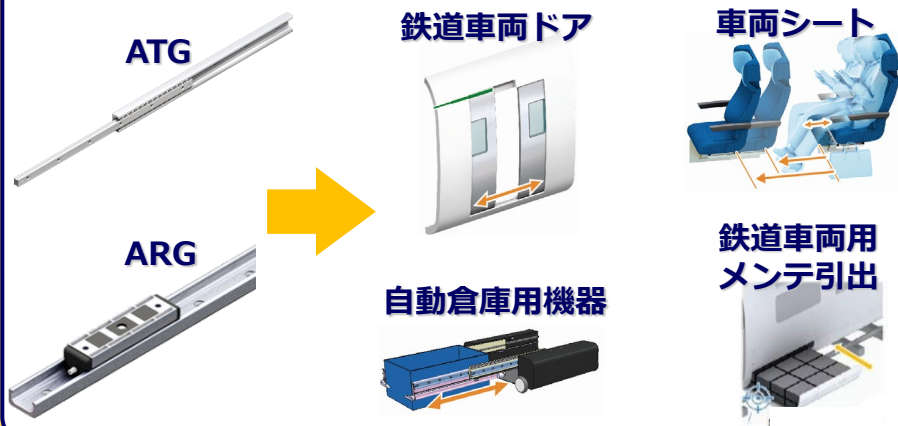
既存分野

精密化が進む半導体製造装置向けなどに高精度製品を投入

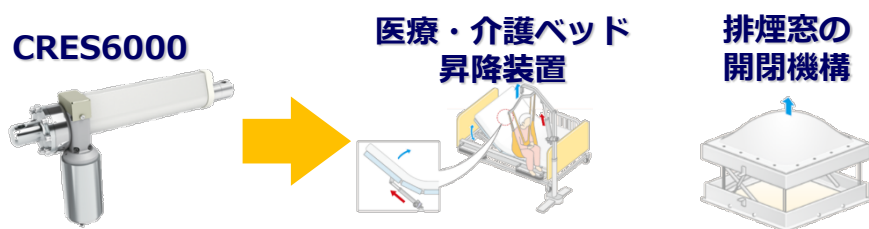
様々なシーンで活躍する製品群

民生分野において拡大

ユーティリティスライドATG / ARG



ロッド型アクチュエータCRES6000



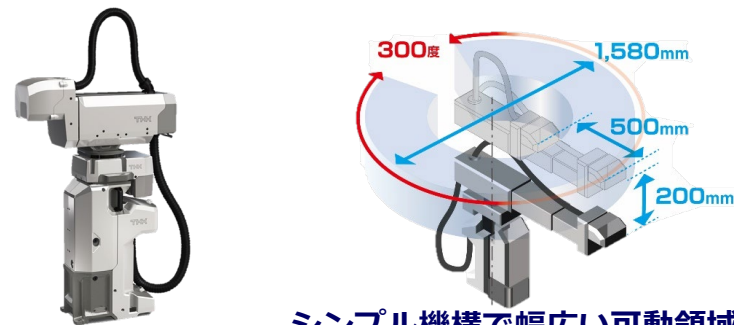
ユーティリティスライドUGR



自動化・省力化に貢献

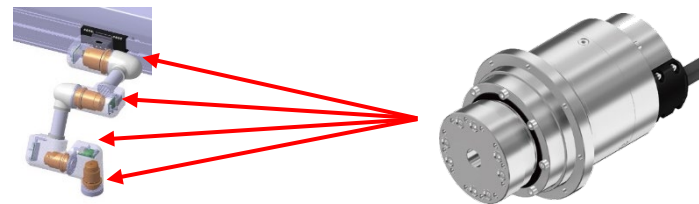
円筒座標型モジュール MLS

- ・ シンプルな機構で直動・回転の動きを自動化するモジュール
- ・ ピックアッププレースやワークの取り出しなどに最適



回転モジュール RMR

ロボットの関節に最適な回転タイプのモジュール製品



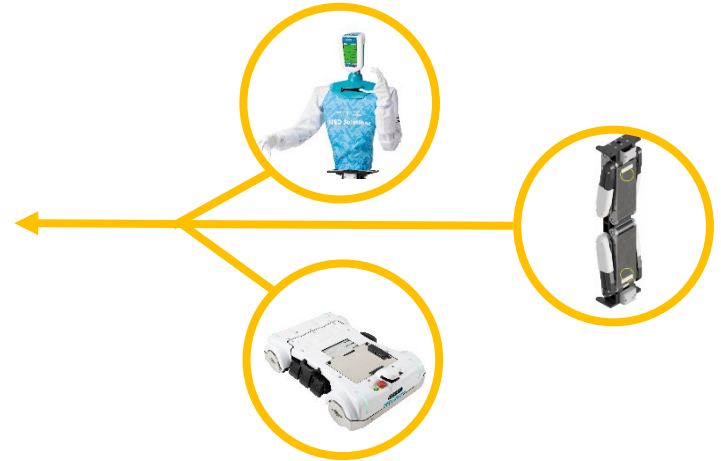
ピッキングロボットハンドシステム PRS

物流センターにおけるアイテムピッキング作業の自動化を実現



サービスロボット SEED-R7 シリーズ

汎用性の高い3種類のユニット
で様々な用途に対応し、
早く、安く、簡単に
サービスアプリケーションを
構築可能



搬送ロボット SIGNAS

- ・独自の自律移動制御システムで簡単設定
- ・さまざまな用途、使用環境で活躍



SIGNAS



積載



牽引

自律移動型 サインエージロボット



- ・ 360°旋回が可能
- ・ マルチメディア
コンテンツの視聴や
検温モニターなど
多彩な用途に活用

グローバル生産体制の拡充（産業機器事業）

半導体関連や自動化・ロボット化などの需要の拡大を見据え
次回以降の需要の山は、かつてない高水準になるとの想定のもと
用地取得を伴う新工場建設も含め、さらなる能力増強を検討中

THK常州（中国）

増築新工場

2022年6月稼働

品目： アクチュエータ
ユニット等

床面積：約15,000㎡



THK遼寧（中国）

増築新工場

2023年4月稼働

品目： LMガイド
アクチュエータ等

床面積：約25,000㎡



THK India（インド）

新工場

2021年11月稼働

品目： LMガイド

土地面積： 約205,000㎡

第一期床面積：約37,000㎡



THK新潟（日本）

増築新工場

2022年11月稼働

品目： ボールスプライン

床面積：約7,500㎡



輸送機器事業の再編の進捗

FY23 事業再編・黒字化

リカバリープラン継続・強化
生産再編・組織再編

23年度上期実績 約 8億円コスト削減

利益重視運営（縮小厭わず）

不採算製品の返上/生産拠点の縮小・閉鎖検討

23年度上期実績 不採算製品返上による効果0.4億円

更なる価格転嫁交渉を継続中



産業機器製品の生産
THKリズムでの生産



23年度上期実績：生産金額約12億円

※輸送機器事業の実績・計画に含まれる

次世代製品へ発展

開発を加速・新規受注拡大

FY24以降 利益成長の実現



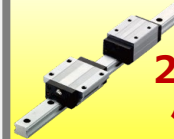
【既存製品】
収益性改善



更なる付加価値向上

【産業機器製品】

24年度 生産金額約50億円
他工場への横展開を検討



【次世代新製品】
開発加速・出荷拡大



“CASE” を追い風に自動車向け直動製品の開発を加速

複合ブレーキシステム用
ユニット



アクティブサスペンション用
ユニット



車高調整ユニット

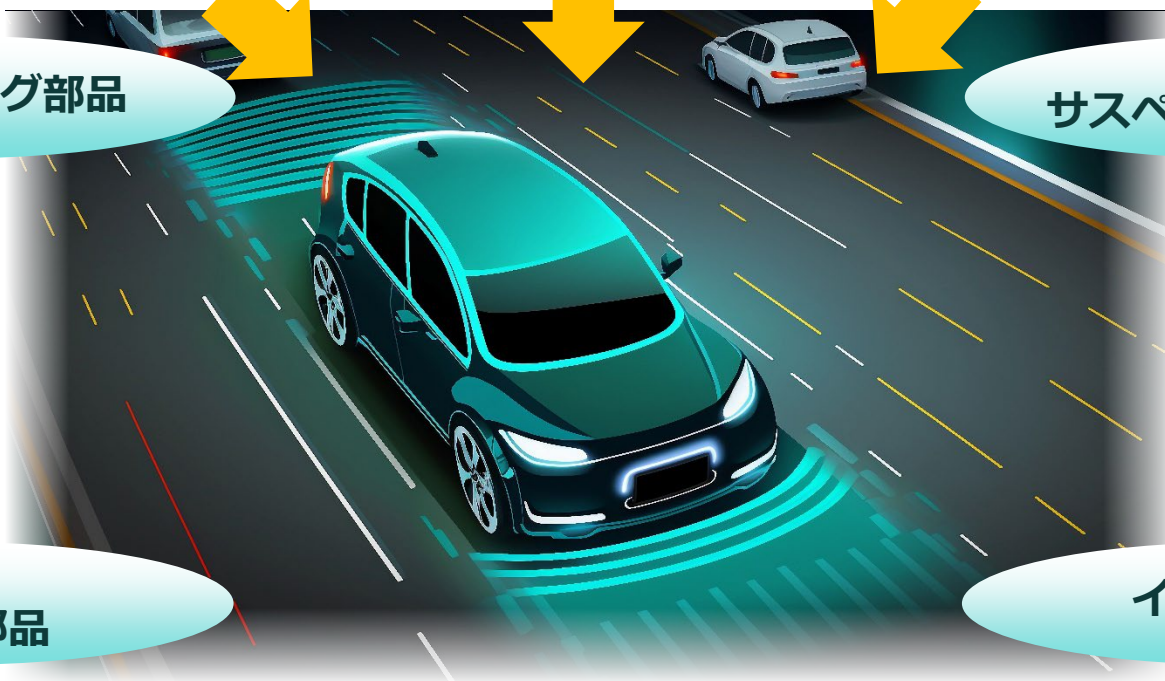


電動ステアリング部品

次世代
サスペンション部品

次世代
ブレーキ部品

インテリア



企業価値向上に向けて

$$\text{PBR（株価純資産倍率）} = \text{ROE（自己資本利益率）} \times \text{PER（株価収益率）}$$

2026年度目標値17%

資本コストを意識した経営の推進による更なる改善

各事業におけるROICの向上

産業機器事業（トップライングロース）

シェア拡大・グローバル生産能力増強
DXの推進(Omni THK、OMNIedge)
新製品の開発・加速

輸送機器事業（収益性改善）

リカバリープラン継続・強化
利益重視運営
次世代自動車向け製品拡大
アルミ製品強化

各事業における取り組みの加速

ROICにおけるリターン（分子）を高めるべく、
積極的な投資に資金を充当し、適切な分配を実施

設備投資： 22年度～26年度（5か年）産業機器事業約1,500億円 / 輸送機器事業約200億円

人的投資： インセンティブにつながる昇給 / 株式報酬制度の拡大を検討

配当性向： 30%を当面継続

これらを前提とした余剰資金は自社株買いを検討

開示情報拡充への取り組み

ホームページ全面リニューアル（23年3月17日）

- ・マルチデバイス対応
- ・テクニカルサポートサイトのログイン可能
- ・会員向けツール/サービスをシームレスに利用可能（製品詳細情報やCADデータの提供等）
- ・"THKジャーナル"で製品/業界などの記事を提供



統合報告書発行（23年5月31日）

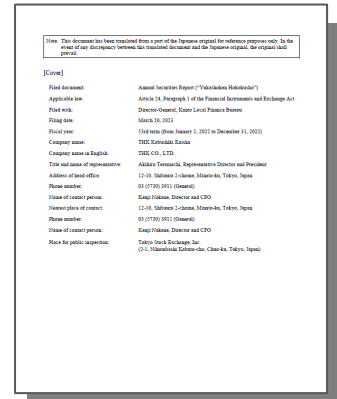
中長期的な価値創造を財務・非財務の両面から訴求することを目的に発行

※サステナビリティに関する
各拠点における詳細な取り組みは
ホームページで公開



英語版有価証券報告書発行（23年6月19日）

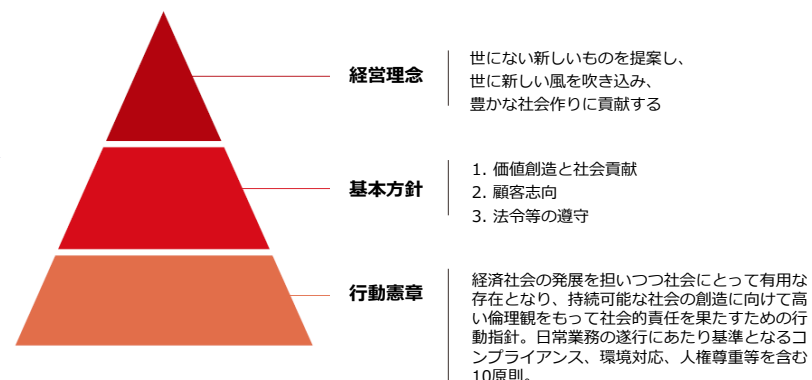
グローバルな投資家のニーズに応える
英文開示情報の充実



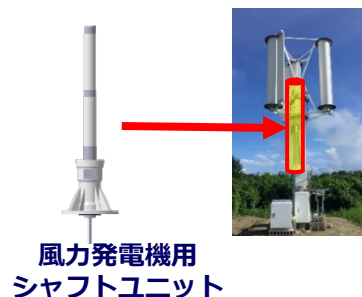
サステナビリティ経営について

サステナビリティ基本方針

THKグループは、創業の精神である「経営理念」を脈々と受け継ぎ、「基本方針」を誠実に体現した事業活動を展開し、「行動憲章」に基づく自主的な行動を実践することで、本業を通じた企業価値の向上と持続可能で豊かな社会作りへの貢献の両立を目指します。



再生可能エネルギー向け製品拡大



直動製品拡大 (省エネ化に貢献)



自動車のEV化に伴う 小型軽量化に貢献する 製品の拡大

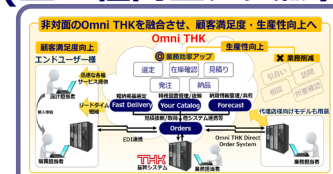


ものづくりサービス業

OMNIedge (生産性向上、環境負荷低減に寄与)



Omni THK (生産性向上に貢献)

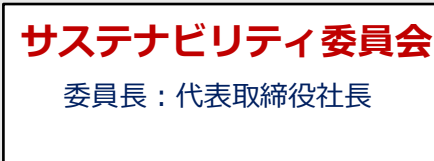


ものづくりサービス業としてサステナビリティに貢献

サステナビリティ推進体制と直近の活動

- 再特定したマテリアリティに対するKPI・KGIの設定と全社的取り組みのサポート（検討・実行中）

サステナビリティ体制図



委員会事務局
リスク管理室

サステナビリティ推進部会

メンバー所属部署

社長室	品質保証統括部
総合企画統括部	技術本部
人事総務統括部	IMT事業部
財務経理統括部	ACE事業部
情報システム統括部	営業本部
事業企画統括部	生産本部
商品企画統括部	IOTイノベーション本部
マーケティングPR部	輸送機器統括本部
サービスロボット事業部	

TCFD提言に沿った情報開示

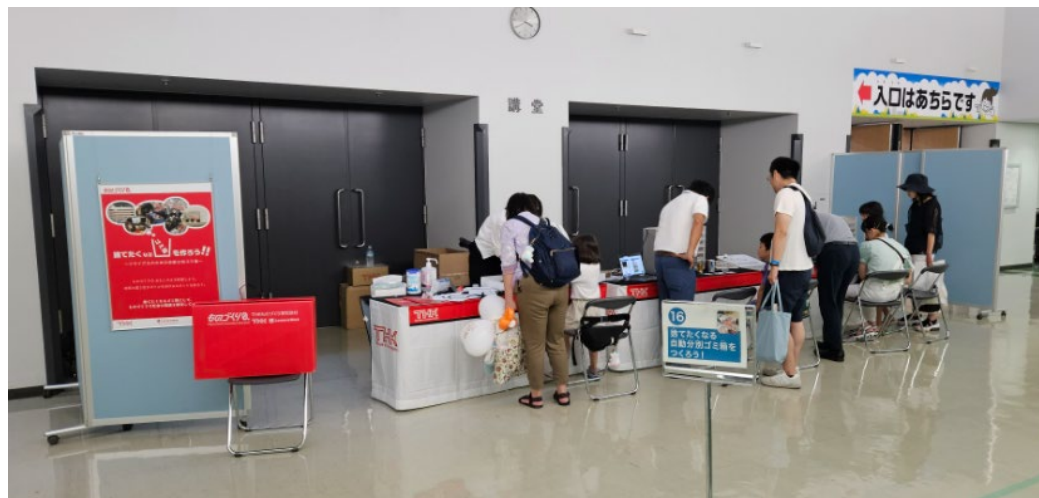
- TCFD提言に対して賛同を表明（2023年2月）
- 「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4テーマを中核的要素と位置付け、気候変動の影響について分析を実施し、2023年3月に情報開示

「こども霞が関見学デー」参加（8月2日、3日）

人々に役立つ技術を開発する 次世代のものづくり人財『創造開発型人財』の育成

THKは「ものづくり」を通じて、思考力・判断力・表現力を養う学びの機会を全国の学校現場にお届けしています。会場ではお子様方にTHKものづくり探究教材※を体験してもらいました。

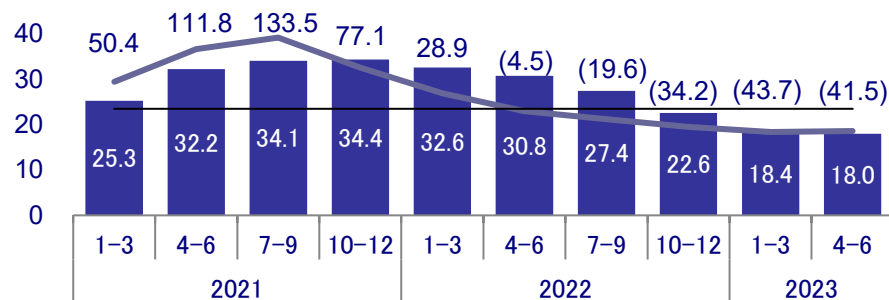
※「捨てたくない自動分別ゴミ箱をつくろう！」
空のボトルを自動で分別するゴミ箱をつくろう！
鉄・アルミ・ペットの材質を見分けられるか？
それぞれ分別することが出来るか？
プログラミングの論理を学び完成させられるか？
ものづくりで社会課題を解決しよう！



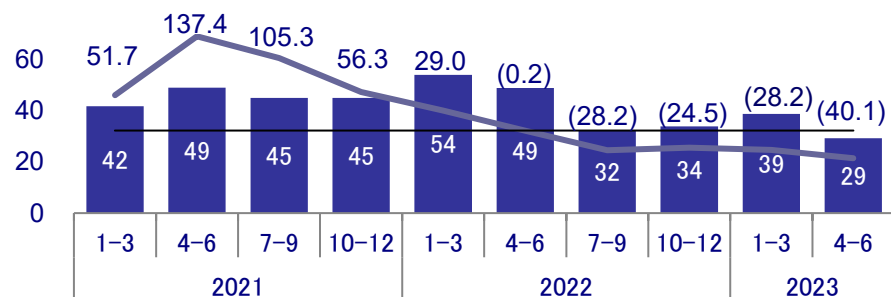
Ⅲ. 2023年12月期 業績予想

地域別受注状況（産業機器事業）

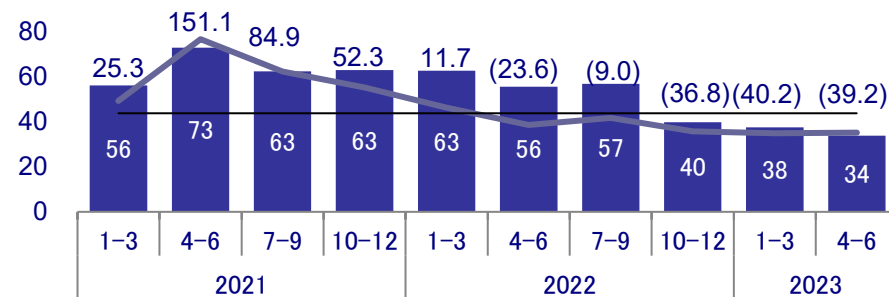
THK国内 *輸出を除く 前年同期比、10億円



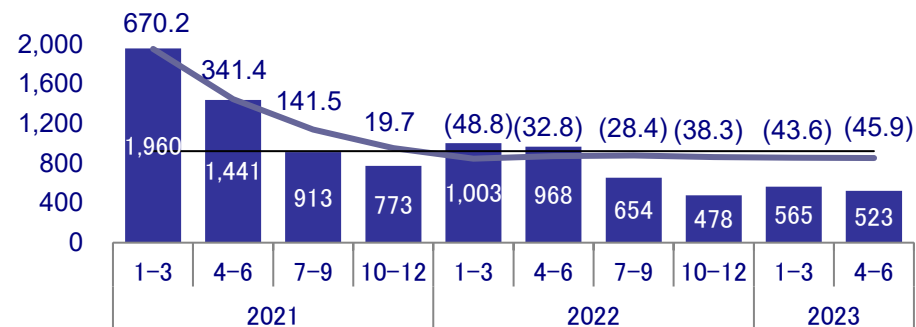
THK Europe 前年同期比、100万ユーロ



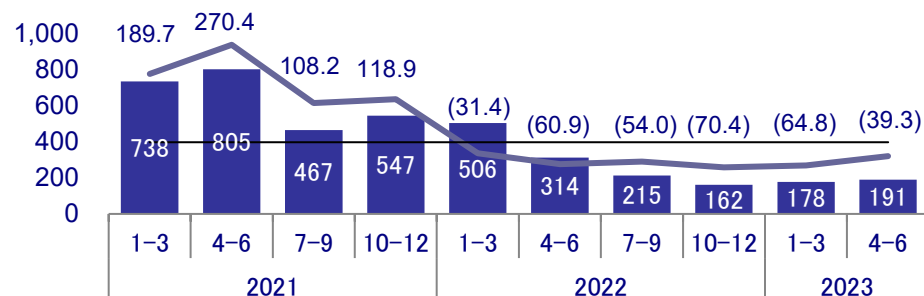
THK America, Inc. 前年同期比、100万ドル



THK (CHINA) CO., LTD. + THK (SHANGHAI)
前年同期比、100万元



THK TAIWAN 前年同期比、100万台湾ドル



利益計画（連結）

	2023/12			2022/12
	8/8修正計画	期初計画	上期実績	実績
売上収益	345,000	360,000	185,593	393,687
前年同期比	△12.4%	△8.6%	△0.6%	+23.7%
営業利益	21,000	30,000	16,471	34,460
前年同期比	△39.1%	△12.9%	△21.2%	+13.8%
税引前利益	22,500	31,600	17,146	35,596
前年同期比	△36.8%	△11.2%	△23.1%	+18.7%
親会社の所有者 に帰属する 当期利益	16,000	22,400	12,042	21,198
前年同期比	△24.5%	+5.7%	△16.2%	△7.9%

利益計画（単独）

日本基準（百万円）

	2023/12			2022/12
	8/8修正計画	期初計画	上期実績	実績
売上高	146,300	157,500	79,606	197,624
前年同期比	△26.0%	△20.3%	△17.0%	+17.9%
うち国内	90,100	96,000	48,129	117,572
前年同期比	△23.4%	△18.3%	△18.5%	+18.0%
営業利益	5,700	10,100	5,507	25,722
前年同期比	△77.8%	△60.7%	△51.9%	+53.9%
経常利益	14,500	18,100	13,662	35,105
前年同期比	△58.7%	△48.4%	△32.9%	+60.2%
当期純利益	11,700	14,700	11,176	6,094
前年同期比	+92.0%	+141.2%	△30.1%	△66.8%

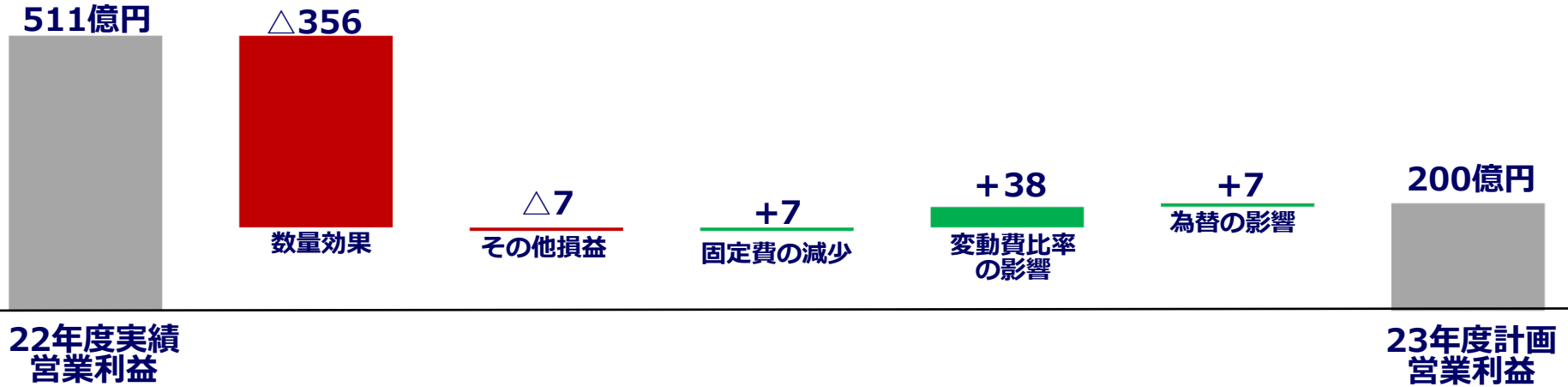
2023年度 修正計画増減益要因 (参考)



産業用

2022年度実績 売上収益 : 2,821億円
営業利益 : 511億円

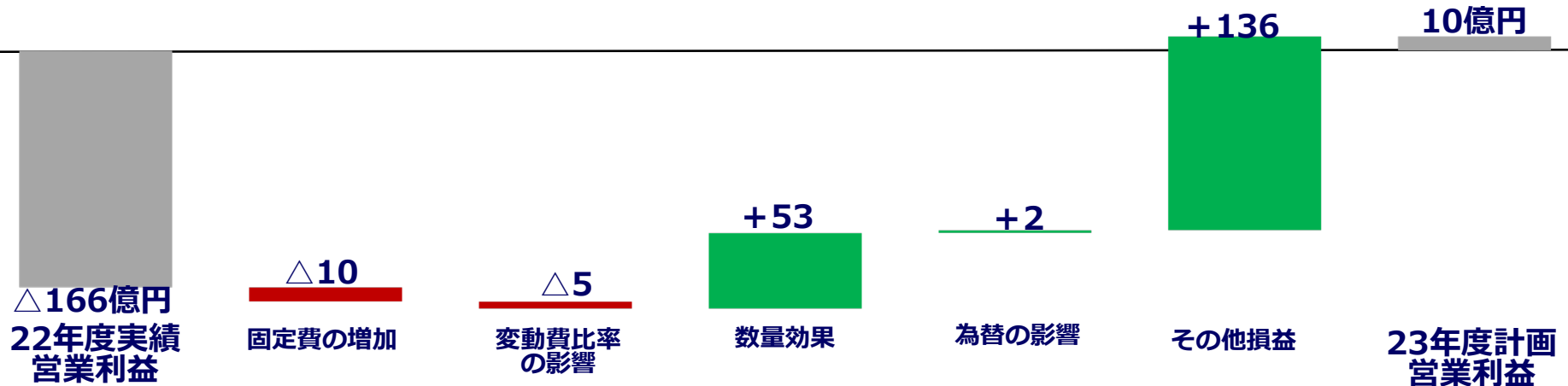
2023年度計画 売上収益 : 2,131億円
営業利益 : 200億円



輸送用

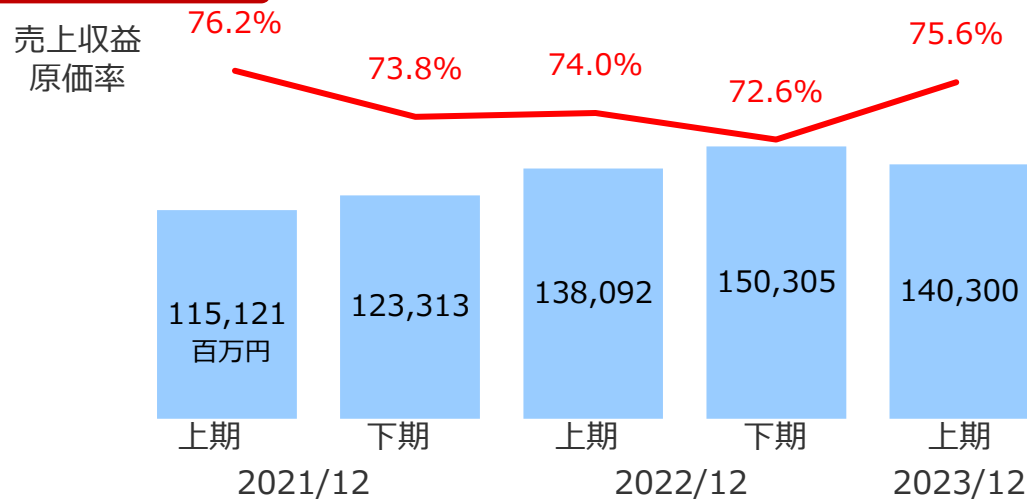
2022年度実績 売上収益 : 1,116億円
営業利益 : $\Delta 166$ 億円

2023年度計画 売上収益 : 1,319億円
営業利益 : 10億円



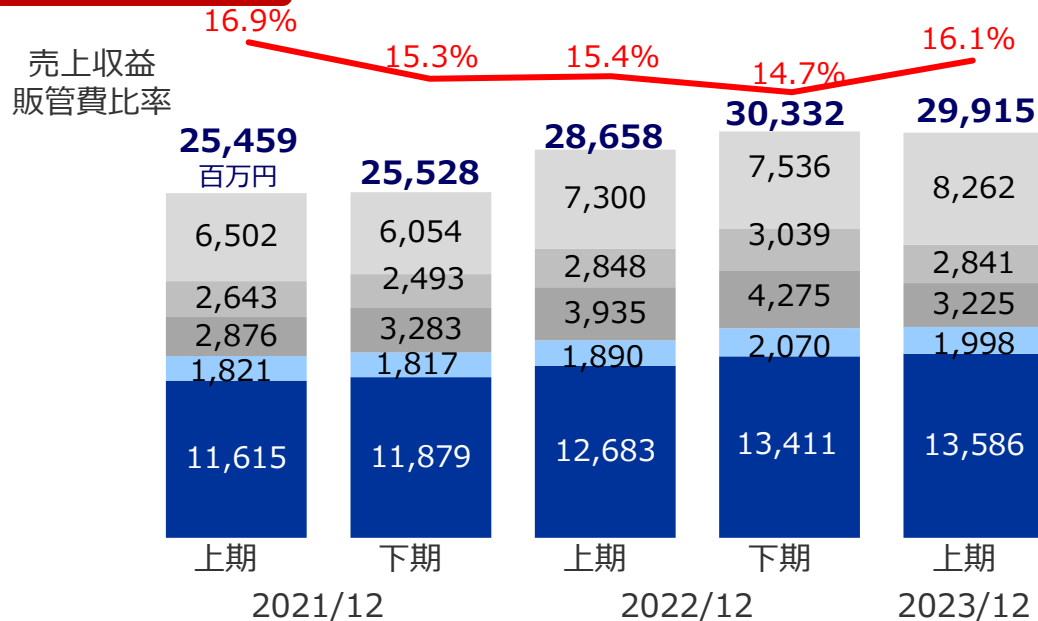
売上原価および販管費の推移

売上原価



原価率は前年同期比1.6ポイント上昇
・各種費用の増加

販管費



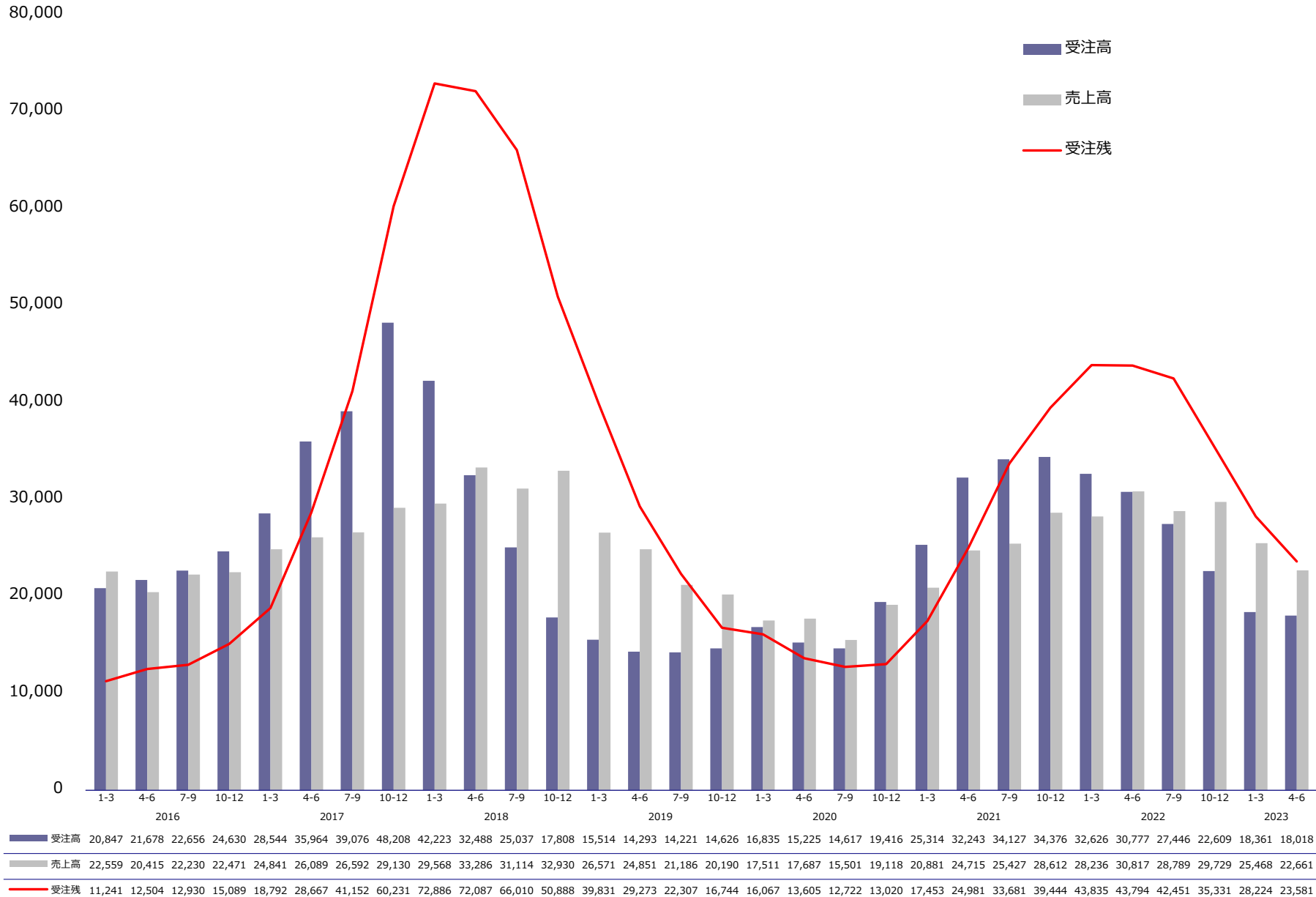
販管費比率は前年同期比0.7ポイント上昇
・各種費用の増加

その他
研究開発費
荷造運搬費
減価償却費
人件費

【補足資料】受注高・売上高・受注残高の推移（単独国内）



(100万円)



【補足資料】業種別受注高の推移（単独）

(100万円)

12,000

10,000

8,000

6,000

4,000

2,000

0

— 工作機械

— 一般機械

— エレクトロニクス

0

	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6		
	2016				2017				2018				2019				2020				2021				2022				2023			
工作機械	2,715	2,800	2,575	2,630	3,353	5,879	6,213	8,076	5,976	5,534	4,139	2,489	1,737	1,355	1,324	1,138	1,260	1,350	1,301	2,217	3,123	4,659	4,373	4,515	4,539	3,933	4,033	3,125	2,336	2,085		
一般機械	3,682	3,671	3,662	4,083	4,846	6,798	6,730	8,573	7,193	6,021	5,130	3,391	2,485	2,287	2,431	2,482	3,024	2,659	2,891	3,706	5,249	6,175	6,915	6,587	6,210	5,458	4,812	3,313	2,783	2,547		
エレクトロニクス	3,485	4,649	4,697	5,867	6,816	6,780	8,142	10,442	8,967	5,425	4,575	2,618	2,793	2,717	2,542	2,950	4,601	4,067	3,369	4,472	5,337	7,230	8,739	8,956	7,773	7,762	7,198	5,553	4,290	4,597		